

市議会だより



2018年4月1日発行

発行 仙北市議会
編集 仙北市議会・
広報編集
特別委員会



3月定例会
予算常任委員会・
議員賛否
一般質問(7名)

P2~3
P4
P5~11

総務文教常任委員会
市民福祉常任委員会
産業建設常任委員会
いきいき広場・
フリースタイルスキーW杯
控室・人事・編集後記

P12
P13
P14
P15
P16



— 3月定例会 —

第1 回定例会が2月19日から3月13日までの23日間の会期で開催され、平成30年度一般会計予算案など54件が審議された。

初日に仙北市堆肥センター条例制定案、仙北市特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の一部改正案等14件、平成30年度仙北市集中管理特別会計予算案等の特別会計予算案9件、平成29年度一般会計補

正予算案等が上程され、教育長等の人事案件5件については初日に同意された。議会最終日には除雪費不足による平成29年度一般会計補正予算案等3件が追加上程され、特別職(市長、副市長、教育長)の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例案は賛成少数で否決され、それ以外の議案は全て可決された。

356億5,042万円を可決

会計・企業会計158億6,742万円

平成30年度 特別会計・企業会計予算 (単位:千円)

集中管理特別会計	3,559,019
下水道事業特別会計	758,744
集落排水事業特別会計	385,092
浄化槽事業特別会計	101,511
国民健康保険特別会計(事業勘定)	3,059,561
国民健康保険特別会計(田沢診療所)	23,112
国民健康保険特別会計(神代診療所)	90,267
後期高齢者医療特別会計	309,155
介護保険特別会計	444,655
生保内財産区特別会計	67,000
田沢財産区特別会計	35,123
雲然財産区特別会計	3,411
病院事業会計(企業会計)	5,901,236
温泉事業会計(企業会計)	71,872
水道事業会計(企業会計)	1,057,669
合 計	15,867,42

(注)企業会計については、収益的支出及び資本的支出の合算額を掲載した。

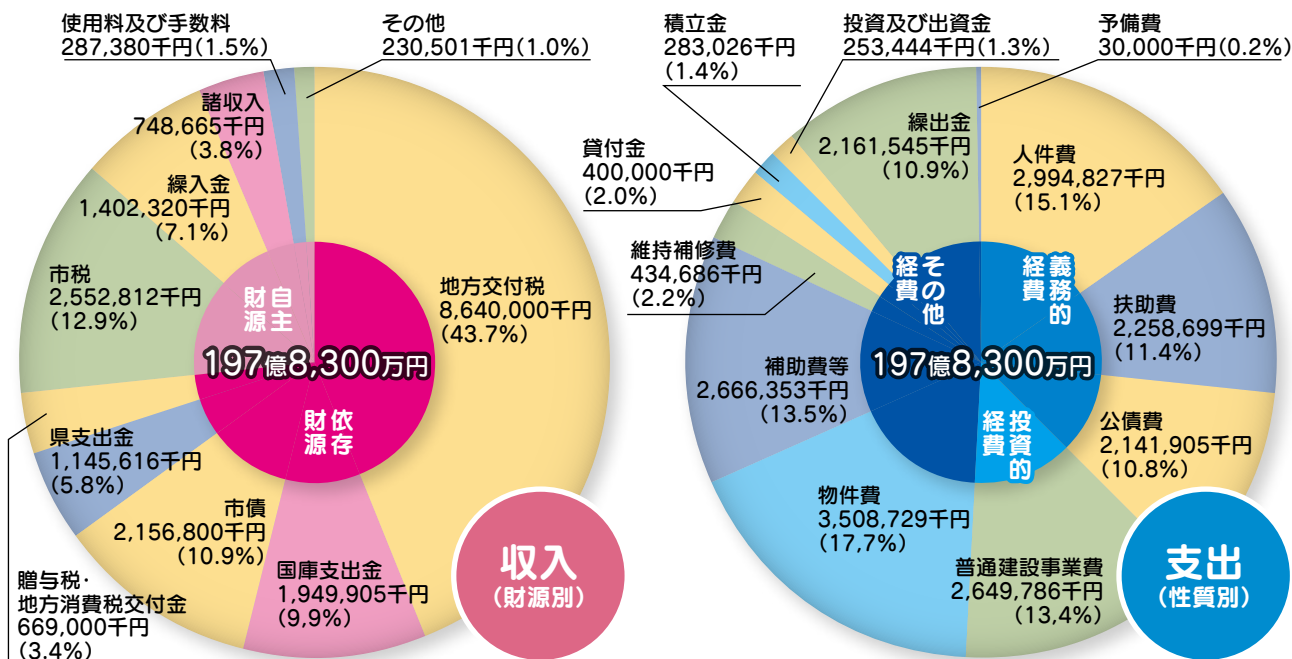
病院事業

角館総合病院精神科医師3名全員3月末で退職。精神科入院病棟休止される。外来は非常勤医師で対応継続される。

病院事業会計が3億5,397万円の赤字予算、支出に現金支出の伴わない減価償却費4億8,574万円が含まれているため、現金収支は1億6,716万円の黒字となっている。赤字は角館総合病院事業会計からで、平成28年、29年は病院建設、開院に伴う新医療機器への職員習熟のための患者数を抑制した年度よりもさらに、一部外来診療中止のため年間11,712人少ない外来患者数計上予算。30年度からは建設費用償還年度である。市民の信頼に応え患者数の増加策を。

人口10万人を越える自治体であっても、1市立病院の経営により自治体の経営が厳しくなっている自治体が多い。人口が3万人を大きく割り込んだ当市は人口減が続く中で、2つの市立病院を経営していくことは不可能に近く、その方向性を議論しなければならない。

基金からの繰入金を大幅に増額しての予算措置



平成30年度当初予算総額
一般会計予算**197億8,300万円** 特別

本定例会の焦点概要説明

本 定例会は、病院関係、特別職の職員（市長、副市長、教育長）の給与及び旅費に関する条例の一部改正、再災害防止対策事業費、国の米の生産調整が廃止される中での仙北市の米の生産、認定こども園等について議論が交わされた。

市長等の特別職は条例により給与額が定められている。市長は毎年附則により減額改正案を議会に提出し承認されてきたが、総務文教委員会から報酬審議会での審議を経て附則の改正でなく条例本則を改正するべきだとの意見により条例の一部改正案は賛成少数で否決された。

再災害防止対策事業費、これまでは災害が発生した場合災害発発生前の現況に復するだけの工事であったため、何度も同じ場所が被災してきたものを、被災した場所を含む一連の場所25箇所に30年度予算を計上整備。再び災害が発生しない復旧事業となるのかに議論が集中した。

国からの生産調整が廃止される中で、米の産地間競争が激化することが予想される。ブランド米の中心であった新潟県魚沼産コシヒカリが、昨年の食味で特 A から A に格下げになった。消費者の求めるおいしい米・野菜作りには完成した堆肥センターの利活用について議論。

角館保育園の幼保連携型認定こども園により、現在社会福祉法人「はなさき仙北」が経営している２園を含め市内５保育園が幼保連携型認定こども園となり、小学校就学前教育のさらなる充実と小学校との情報の共有、さらに、保育士の職員採用への雇用拡大に向けて、全保育園の「はなさき仙北」への経営委譲等について議論が行われた。

可決された主な議案

(一般会計予算関係は除く)

- ・仙北市堆肥センター条例制について
- ・仙北市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例制定について
- ・仙北市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例制定について
- ・仙北市基金条例の一部を改正する条例制定について
- ・仙北市立幼保連携型認定こども園条例の一部を改正する条例制定について
- ・仙北市営住宅条例の一部を改正する条例制定について

(一般会計予算関係は除く)

- ・仙北市堆肥センター条例制について
- ・仙北市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例制定について
- ・仙北市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例制定について
- ・仙北市基金条例の一部を改正する条例制定について
- ・仙北市立幼保連携型認定こども園条例の一部を改正する条例制定について
- ・仙北市営住宅条例の一部を改正する条例制定について

予算常任委員会

平成30年度仙北市一般会計予算

予算常任委員会は本会議から付託を受けて、平成30年度一般会計及び平成29年度補正予算について2月28日、3月9日の両日は議案質疑、及び同月12日は討論採決が行われた。
各分科会の審査報告から主な事項を抜粋する。

○総務文教分科会 《収納対策》

県内最下位の税の徴収率改善のため、「収納推進課」を組織し臨戸訪問を中心に収納対策を強化する。悪質なケースには預貯金や財産等の調査をして、覚悟をもってあたる。

○市民福祉分科会 《医療局の予算》

これまで医療局の経費は両病院が負担する形で措置されてきたが、両病院自体の経営が厳しく、今後は一般会計で予算措置する。

○産業建設分科会 《通農体験・農業定住事業》

市町村振興宝くじの収益金を活用する事業。首都圏で暮らす退職後のシニア世代を対象に新幹線を利用して本市での農業体験ツアーを募集する新規事業。JRとの協賛事業で7月、9月、11月を計画している。JRの提案で東北では初めての試み。このツアーを受け入れる農家民宿には宿泊料、農業体験料、食事代等で1人あたり、1泊2日分として、1万2千円が支払われる事業。

平成29年度一般会計補正予算の主な事項の抜粋

主な内容	生活バス路線対策費	256万円	羽後交通のバス路線の殆どの乗車人数が大幅に減少しており、補助金を増額するもの
	病院事業会計補助金	2億4,308万円	新病院の移転経費と移転に伴う収入減の補填他、交付金の確定による補正
	担い手確保・経営強化支援事業費補助金	2,324万円	国の補正に伴い西木地区1か所のライスセンター能力強化補助、農地集積拡大による農機類の更新が主なもの

以上、採決の結果上程された各議案・一般会計補正予算は全会一致で原案通り可決された。

議決結果/議員賛否 平成30年 第1回 仙北市議会定例会(招集日:2/19 最終日:3/13)

凡例：賛→賛成、反→反対 退→退席 欠→欠席（議長は法律で定めるケース以外では表決をしないことになっています）

議案番号	会派及び氏名 件 名	議決月日	議決結果	蒼生会				共産党	公明党	党及び会派に 属しない議員										
				黒 沢 龍 己	小 林 幸 悦	安 藤 武	高 橋 豪			平 岡 裕 子	熊 谷 一 夫	佐 藤 大 成	門 脇 民 夫	田 口 寿 宜	大 石 温 基	阿 部 則 比 古	小 田 嶋 忠	荒 木 田 俊 一	伊 藤 邦 彦	真 崎 寿 浩
議案第 4 号	仙北市特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例制定について	3/13	否決	反	反	反	反	反	賛	賛	欠	反	賛	賛	退	反	賛	反	反	賛
議案第 2 6 号	平成 30 年度仙北市国民健康保険特別会計予算	3/13	可決	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	欠	賛	賛	賛	退	賛	賛	賛	賛	賛
議案第 3 2 号	平成 30 年度仙北市病院事業会計予算	3/13	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	欠	賛	賛	反	退	賛	賛	反	賛	賛
議案第 4 8 号	平成 29 年度仙北市温泉事業会計補正予算(第 2 号)	3/13	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	欠	賛	賛	反	退	賛	賛	反	賛	賛

※全会一致で可決された議案については議員賛否を掲載しておりません。

門脇市政3期目にかける思いは。

荒木田 俊一 議員

市長 産業の育成と人口対策に尽きる。

30年予算編成を終えた門脇市政3期目の対応は

質問 取り組みの重点事項は。

答弁 大きく言うとうと産業の育成と人口対策に尽きる内政重視型である。

未収金対策の強化、再災害防止対策、不要施設の除却、移住定住対策等である。

質問 企業誘致は、いつ目途が立ち、活用されるのか。

答弁 今対応している企業は、全国規模の食物工場を計画している企業で、1月29日にも訪問を受け協議している。国の補助金を活用した計画であったが、ハードルが高く、形態を変え、現地法人を設立した上での建設を望んでいる。今の時点では明確に答えられない。

他の企業の情報も収集しているが、高速交通体系に対応が取れていない地勢が課題である。

角館病院は住民の期待に込んでいるのか

質問 多額の税金を投入し、改築した角館病院は、住民の

期待に込めているのか。

答弁 医療従事者の充足と質の向上が極めて重要であり、更なる努力をしていく。精神科の医師については、首都圏の大学付属病院と協議している。病院は守るという決意の下、運営にあたる。

質問 市が賃借等で利用している面積、件数、目的、支払い金額はどうなっているのか。財政に与える影響はないのか。

答弁 総面積119万9千615㎡で227件である。主な利用目的は、紅山桜等植栽地、観光レクリエーション施設用地、公園用地、駐車場、集会文化施設用地、市営住宅用地等であり、有償用地は261件、93%で、支払い総額は年間3千2百28万9千円である。

財政に与える影響は少なくなく、改善の必要がある。個々の借地を精査し、恒久的に必



■賃貸地に建つ市営住宅「菅沢団地」

要な土地は取得に向け、意義の薄れている土地は契約の解除、賃借料金においても算定のルールに基づき見直していく。

コメの直接支払交付金廃止の影響は

質問 コメの直接支払金が無くなる。農家や地域経済に与える影響をどう捉えているのか。また、これに変わる制度はできるのか。

答弁 大変厳しいものと捉えている。29年度において、総額1億7千9百64万5千円が、交付されている。この廃止で、購買意欲の減退等、地域経済への影響は大きく、これに代わる制度がないのが現状である。

質問 生産基盤の維持には、中山間地直接支払制度や多面的機能支払交付金制度が有効と思うが取り組みの実態は。

答弁 中山間事業は107ha、多面的機能は3263haで、経理や事務を行うものの人材確保が課題となっている。

(熊谷 一夫記)

展示クニマスのストレス度合いは。

大石 温基 議員



施設長 施設としては良好な環境。

質問 クニマスは普段深い場所に棲息していると聞くがクニマス未来館の水槽で問題はないのか。

答弁（施設長） 水槽の深さは76cm、水温は11・5℃、クニマスにとっては温度が高いかと思うが、下げると成熟が早まる可能性があり、寿命が短くなるので長期飼育を目指した方法をとっている。クニマスは暗い所を好むので展示ライトの照射方法を蜜に調整しながら入館者の視点も考慮している。

質問 道の駅の計画はどれくらい進んでいるのか、どの様な道の駅にするつもりか。

答弁 市が施設を整備し、民間団体が経営を担うタイプだけでは無く、さまざまな手法も精査するなど、多くの点で整備が必要と思っている。

平成30年度は市内の農業者や加工業者、現在直売に関わっている方々等から多くの意見

を伺い、仙北市の特色を発揮しながら経営の維持安定が可能か具体的に研究を重ねたい。

質問 請願、陳情、要望書に対してどの程度対応出来ているのか、書類は何年保存しているのか、どれぐらいあるのか。

答弁 保存年は文書取り扱い規定で文書の重要度等により、事務の重要施策に関する文書と言う事で永久保存としている。



■クニマス水槽

請願は合併から13年間で43件、陳情要望書は812件、市民の皆様からの要望には出来る限り実施する方向で検討し応えている。時間はかかるがその成果は出てきていると思う。

質問 神代中央線、東田鎌川線は工事着工から10年以上になるが完成予定はいつか。

答弁 財源は社会整備総合交付金で、交付金の配分は29年度で要望額に対し半分に達していない状況である。30年度は神代中学校線までの用地買収と橋梁架設工事を含めた道路工事を予定している。

東田線は未着工部分の改良工事を予定しており交付金が予定の額になれば完了する。

質問 市長の想うこれからの農村は。



■全通が待たれる神代中央線

答弁 国の礎は農にありだと思っている。農村部こそ多くの価値観を生み出し、受け入れ、それを共用する懐の深さを持っている場所であると思う。それぞれが四季折々の営みを楽しみ、健康で自分らしく生きる、そんな人性設計を優先する国民が増えていく。

農村部の可能性は決して少なくないと考える。

（阿部則比古記）

(仮称) お祭り会館の建設は。

小林 幸悦 議員

市長

検討委員会の答申が出れば速やかに段取りに入る。

今後の除雪対策について

質問 市の中心部で流雪溝が整備されず道幅が狭く排雪の場所にも困っている方々にとっては大変深刻な問題である。今後の除雪対策として地下水を道路に散水して消雪をする方法が効果的と考えるが如何か。

答弁 通常の除雪が難しい狭隘な道路について試験的に融雪装置の設置を検討したい。

(仮称) お祭り会館建設について

質問 建設事業を進めるための協議をしてきたと思うが、計画をまとめる時期ではないか。

答弁 西宮家米蔵と外町交流広場の併用立地を考えている。たたき台として簡単な図面などが必要との意見もあり、専門知識を持つ方の参画を検討している。委員会の意見が集約され答申があった場合速やかに実現に向けた段取りに入る。



■大仙市の消雪設備

花葉館のグラントゴルフ場近くにある通称ロッジの整備について

質問 花葉館で整備しているグラントゴルフ場の休憩所として利用されている通称ロッジのトイレが利用者から不評の声が多くある。現在の簡易水洗方式から浄化槽を設置したトイレの改修工事を検討できないか。

答弁 28年度には女性トイレの洋式化、30年度には男性トイレの洋式化を行う。

花葉館が運行しているシャトルバスについて

質問 市民バスを利用できない住民を花葉館が角館駅まで運行しているシャトルバスに乗れるような協議はできないか。

答弁 市の公共交通会議を始め各関係機関と協議を行う。



■花葉館シャトルバスの市民利用を

門脇市長の政治姿勢について

質問 平成28年度一般会計決算が不認定となった背景は、これまで未収金対策の改善策を示してきたが、功を奏することができなかったことが大きな要因だと思うが、市長の思いを伺う。

答弁 議会の決定を重く受け止め、来年度新たに設置する収納推進課を中心として現状打開に当たる。

(田口寿宜記)

「健康の駅」設置で 市民の健康寿命の延伸を図れ。

門脇民夫 議員

市長

平成 30 年度に諸課題を検討し計画を作成したい。



■「健康の駅」設置で市民の健康寿命の延伸を図れ
(横手市「健康の駅」パンフレットより抜粋)

「健康の駅」設置で 健康寿命の延伸を

質問 各町内会の健康推進委員と保健師による町内会館を活用した健康診断や健康相談による「健康の駅」、公民館、コミュニティセンターを活用した太極拳やエアロビックス等有酸素運動をスポーツ指導員等の指導による「健康の駅」そして、総合型地域スポーツ

クラブ員等の活用による市内各地域にある体育館に健康器具を設置した「健康の駅」へと順次活動を拡大させ、地域コミュニティの拡充、若者から高齢者までの健康づくりを促進させ健康寿命の延伸を図るべきでないか。

答弁 健康の駅は市民の寿命年齢と健康寿命の延伸を考える場合、必要な施設である。市内では命の貯蓄体操や公

民館での太極拳等が行われているが、体系だてた行政施策ができていない。平成30年度に保健事業と施設の検討、健康課題の分析を行い計画を作成したい。

防災について伺う。

質問 昨年の豪雨災害に関し、9月議会、12月議会での議員の一般質問に、市長は、今後、災害復旧対策は従来の現況復旧型から再発生防止強化型に変更すると答弁してきたが、新年度予算にどのように反映されているのか。

答弁 新年度予算に再災害防止対策事業費として計上している。この事業は災害前の現況に復旧する工事では、再び災害が発生すると判断した場合

合に、災害箇所を含む一連の箇所の災害復旧工事を行い、災害の再発生を防止する事業である。

質問 田沢湖(平成元年)、西木地区(平成10年)に設置の防災無線は年数が経過し故障が多くなっている。災害時への不安が市民から聞こえる。風や雨の音があっても市民に周知できる戸別型デジタル方式に、更新するべき時期ではないか。

答弁 市内防災無線の整備は、平成34年度完全デジタル化に向けて戸別型を含めて現在計画中である。外部スピーカーは年1回の点検をしているが、戸別受信機については、不具合が発生した際は連絡をいただければ対応する。

(平岡裕子記)



■防災無線をデジタル化へ

健康増進・延伸活動にポイント制の導入を。

日本共産党 平岡 裕子 議員



市長 早期に実現するよう準備を進めている。

老後を安心して暮らすために

質問 全国で介護保険に加入している方は1号・2号被保険者合せて7,705万人、介護サービスを受けている方は605万人、加入者の7・8%であり、92・2%の方が利用していない。そして、来年度から介護保険料基準額が改訂される。毎月保険料を払いサービスを利用していない被保険者の人たちが、月々の負担を高いと感じる。大曲仙北広域市町村圏組合の現状を伺う。

答弁 大曲仙北広域市町村圏組合の被保険者は65歳以上の1号被保険者・40歳から64歳までの2号被保険者合わせて90,471人であり、サービスを受けている方は9,069人で約10%の方が利用している。そのうち65歳以上の1号被保険者は8,887人で約9・8%の方が利用している。

質問 老後は年金収入が中心となる中で、介護保険料基準額が4月1日から月額200円増額の6,300円となり、国民年金の1箇月分以上が年間の介護保険料となり、高い負担と変わらないか。

答弁 大曲仙北広域市町村圏組合の保険料基準額は全県の中ぐらいいであり、4月1日から200円上が6,300円となるが、介護給付準備金保有額から11億3,900万円を取り崩した。取り崩しがなかった場合は7,062円となる。高いと思うかもしれないが、共に支え合う介護保険制度の必要性を理解してほしい。

質問 健康教室や体操教室への参加で、健康寿命の延伸や健康増進に努力している方が多くなっている。参加者にポイント制を取り入れるなど参加者を増加させる具体的な施策はないか。

答弁 県内5市町村が取り組んでおり、仙北市でも取り組みたい。早期に実現するように準備を進めている。

市内保育園・認定こども園のこれから

質問 4月から角館保育園が幼保連携型認定こども園、角館こども園になることから、幼稚園と保育園の機能をもった施設となる。就学前教育の場としてしっかりとサポートする役割が行政に求められてくる。見解を伺う。

答弁 4月からは幼保連携型

こども園となるので、市としても就学前の教育の場として施設整備のハード面、先生方の研修を行うソフトの両面においてサポートする体制を取ると共に、保育園、こども園と小学校との情報の共有をさらに重ねて行きたい。

答弁（教育長） こども園における就学前教育は重要なもので、小学校と保育園・こども園との交流と情報交換の場を増加させるとともに教育委員の訪問も実施したい。

（門脇 民夫 記）



■充実を望む介護施設



■幼保連携型認定こども園 角館こども園

地域の為に早急な水道事業の実施を。

黒沢龍己 議員

市長

緊急性を十分認識している。



■早期の水道整備が必要な寺沢地区



■検討対象になった桧木内中学校

中川地区全域の今後の水道計画は

質問 寺沢・安久戸地区の水道計画は。

答弁 寺沢地区は角館浄水場から拡張可能なエリアまで、敷設している。敷設出来ないエリアは、田沢湖卒田地区での水道事業完了後に、西明寺高区浄水場からの拡張を検討している。安久戸地区は角館浄水場から拡張する計画であるが、凍上災の関係もあり、平成32年度の水道事業基本計画の見直しで検討する方針である。

質問 高屋地区の水質検査の結果を踏まえてどのような対策をとるのか。

答弁 現在までに、行政として科学的な水質分析を行っていないかったことを特に問題視し、反省している。分析結果では50世帯中27世帯で、飲用不適の結果が出ている。緊急対応を実施し、恒常的な水道事業の導入を考えなければならぬと感じている。

質問 黒沢地区と肥育団地周辺の水道計画は。

答弁 黒沢地区と肥育団地周辺も西明寺高区浄水場から、拡張していく計画が効率性、コンセンサス等の観点からも望ましいと考えている。高屋地区の水道事業と同じ時期に進めていきたいと考えている。

中川小学校、桧木内中学校の学校統合の進め方は

質問 学校適正配置研究検討委員会の答申と総合教育会議の議論を踏まえて、学校統合計画が公表された。そこで、今後の中川小学校と桧木内中学校の統合に向けた流れとスケジュールを伺う。

答弁（教育長） 仙北市でも、急速な少子化による学校の小規模化が顕著になってきた。小規模校には、個人に応じたきめ細やかな指導が出来る半面、集団の中で多様な考えに触れ、認め、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、生徒の資質や能力を伸ばしていくことが難しいといったデメリットがある。このようなメリット・デメリットを踏まえ、それぞれの地域の実情に応じた教育環境の構築を検討することが求められていると認識している。学校適正配置推進計画に基づき今回2校を検討対象とした。具体的なスケジュールは、平成30年度に、対象地域で保護者・地域住民との丁寧な意見交換会を行う。その後は、生徒の学習環境の変化に伴う不安を軽減するため、学校間交流事業を行うと共に開校準備委員会（仮称）を設置する。スケジュールとしては、平成32年度の統合を予定している。

質問 学校統合後の校舎の利活用を今の段階から考えておくことが重要だ。特に中川小学校の校舎や敷地、庭を公園やサッカー場等の市民スペースとして整備して欲しいが、どうか。

答弁（教育長） 閉校後は、速やかに地域住民の要望にかなうよう利活用策を2年間かけて、しっかりと検討する。

（佐藤 大成記）

病児保育の実現を求める。

高橋 豪 議員



市長 市立角館総合病院での実施を検討する。

新年度予算 再災害 防止対策事業を問う

質問 12月議会では豪雨災害の対策について取り上げましたが、それにより、新年度予算には再災害防止対策事業費として1億1665万円が計上されている。何度も同じ箇所が被災しないための取り組みとして具体的内容を問う。

答弁 平成23年度に、市内23カ所について水害対策の計画を立てたが、その内15カ所は対応済みである。残り8カ所は、早期対応を国県に要望している。今回は、昨年の災害を受けて、供養仏沢冠水対策工事、角館駅東地区冠水対策調査設計委託など、25カ所についての対策を実施するため、再災害防止事業として予算を計上した。市で対応できるものは平成30年度から着手する。また、これ以外にも、市の単独事業で実施するべき箇所があれば対応していく。

質問 自主防災組織等への予算配分も行っているが内容を伺う。

答弁 昨年の豪雨では個人財産も相当な被害を受けた。行政ではこれらの復旧を直接行うことは難しいが、それが結

果的に公共の安全を脅かす要因となるような場合もある。その際、地域の自主防災組織や地域会等が復旧作業を担って頂くことを想定し、それに対し市が支援するというイメージである。現在実施要項を準備中であるが、早期に関連予算を措置する。

火山活動に対する 備えを

質問 本市は秋田駒ヶ岳、秋田焼山の2つの活火山を有する。今年1月の草津白根山における突然の噴火や、多数の死者行方不明者を出した平成26年の御嶽山の噴火災害などを教訓に、火山の監視体制や、噴火時の住民及び観光客への対応について備えを強化するべきである。火山防災に対する今後の対応について伺う。

答弁 秋田駒ヶ岳と秋田焼山はともに噴火警戒レベル1であり大きな変化はない。現在、気象庁は監視カメラ、傾斜計等様々な機器によって常時観測を行っているが、今後、監視体制全体を見直す旨を発表している。また、国土交通省は両山の砂防減災対策の整備を、県は焼山の避難小屋改修を行うとしている。市で

は、気象台の監視体制を軸として、現在行っている女岳の地温測定を継続し、今後は山岳関係者等と協力し、連絡体制の強化に努める。また、防災教育や避難訓練も継続する他、周辺地域において噴火を想定した説明会の実施も予定している。

市民・議会の意見交換会から病児保育の実施を

質問 議会では1月に子育て支援をテーマに市民の皆様との意見交換会を開催した。出席者からは、保育所の待機児童間や子育てサークル等に関連する意見も多かった。これらについての対応は言うまでもなく取り組むべきであるが、中でも、子どもが病気になる場合、親が仕事を何日も休まなければならない状況について支援を求める声があったことを取り上げる。この対策として、他の多くの自治体では既に病児保育や病後児保育を実施しているが、本市では未だ体制がない。実施に向けた今後の取り組みについて伺う。

答弁 病児保育の重要性は十

分に理解している。実現に向けては、医療機関に場所を確保することが重要と考え、市立角館総合病院においての実施を検討する。現在、角館総合病院では職員向けの保育室を設置しているが、病児保育を実施する際には専用スペースを設け、保育士を確保するなどハードルも高い。しかし、重要性を鑑み、市民のニーズに応えるため実現させる取り組みを進める。

(八柳良太郎記)



■病児保育の実現を

総務文教常任委員会

平成30年度一般会計予算

主な内容	収納推進費	1,369万円	徴税体制強化に伴う人件費等
	再災害防止対策事業費	1億1,650万円	災害頻発箇所の工事

平成29年度一般会計補正予算

生活バス路線対策費 256万円

利用者の減少による追加分の補助金

質問 生活バス路線増対策費の増額の要因は。

答弁 羽後交通の路線のうち田沢湖1周線は、乗車人数が700人ほど増加し、補助金が減少しているが、その他の路線は乗車人数を大きく落とし、羽後交通への補助金が増加していることが要因である。

質問 市民の買い物の足という観点から、増額は理解出来る部分もあるが、増額が続くようでは路線の見直しや対策が必要でないか。

答弁 今後多くの路線で利用者が減少していくのは、目に見えている。近い将来、抜本的な対策を取らなければならないと感じている。今後は各種調査をしながら対応していきたいと考えている。

質問 県内ワーストの徴収率改善の為、市民の納税への意識向上を図ることも重要だが、どのように行うのか。

答弁 税の公平という大原則に基づき、臨戸徴収を中心に行う。市民からも多くの苦情があると思うが、しっかりと対応していく。

質問 総合防災課所管で、どのように災害防止事業を行っていくのか。

答弁 再災害箇所には、多くの請願・苦情等が寄せられているが、災害対応が追い付いていない。そこで災害が頻発している箇所に優先順位をつけて、建設部・農林部、総務部連携して災害対応を行いたい。この事業を総合防災課で行うことで、市の対応が市民により理解が得られると考えている。

質問 市職員・専門徴収員への教育、スキルアップをどのように行っていくのか。

答弁 市職員・専門徴収員へスキルアップの為に研修をしっかりと行っていく。

平成30年度予算主な質疑

ここが知りたい 議論のポイント

質問 悪質な滞納者への対策は。

答弁 悪質な滞納者に対しては、預貯金や財産等の調査をし、市もしっかりとした覚悟を持ってあたなければならない。将来的には、部外監査等の導入も必要と考えている。

条例審査

原案可決

「仙北市特別職（市長・副市長・教育長）の職員及び旅費に関する条例の一部を改正する条例制定について」（特別職の給与を財源に充てる為、給与を1年間減額する条例）

質問 給与については、附則で8年間減額することが常態化している。減額する根拠を示し、報酬審議会に諮るべきでないか。

答弁 来年度中に審議会を開いて、附則・本則で給与の額を決めるのか、意見を聞きたいと思っている。

□討論内容

賛成討論

今回の条例提案時には本則変更すべき。今回は賛成する。

反対討論

本来であれば本則を変えるべきだ。今回からは認められない。



■災害頻発箇所の対策 待ったなし！

市民福祉常任委員会

平成30年度一般会計予算

主な内容

障がい者支援施設「かわ舟の里角間川」改築事業費補助金

2億3,272万円

社会福祉法人水交会が運営する障がい者支援施設「かわ舟の里角間川」建設事業に対する助成。

高齢者世帯等除雪支援事業費

736万円

自力で除雪する事が困難と認められる高齢者世帯に対し、除雪費や雪下しに係る費用の一部を助成。

平成30年度 仙北市病院事業会計予算

質問 新年度の角館総合病院の外来予定患者数が1万1,712人と大幅に減少しているが、理由は何か。

答弁 新病院になって外来のリハビリテーションを減らし、入院患者の回復期と地域包括ケアのリハビリテーションの業務を増やし、収益を上げたいという目的がある。

質問 一般会計からの繰出基準の見直しを行ったが、一般会計も非常に苦しい状況であり、希望の繰入額に満たない年も出て来る可能性があると思う。その時の将来的な見通しも検討しているのか。

答弁 繰出基準のルールを決めたが、この後、未来永劫そのままかというとは決してそうではない。財政事情と病院事業を勘案しながら、ルールを固定せず毎年見直しをし、財政事情に合わせた繰出措置をいただくものである。今までも、希望する額を満額支援いただいた事はないので、今の経営状況と合わせ、今後も将来的な病院事業の運営について検討していく。

反対討論

本市の医療行政の在り方、接遇、医療局の改革などの実現が不可能消極的な予算であるため反対する。

賛成討論

財政的に危機感を持ち、将来を見据えた病院の在り方、地域包括ケアシステムとの連携などを再考するよう意見を付して賛成する。

ここが知りたい 議論のポイント

平成30年度予算 主な質疑

質問 かわ舟の里角間川改築事業費について、仙北市からの入所者が2〜3人の状況の中で、この按分された金額は妥当か。

答弁 昨年10月に開かれた広域市町村圏組合の予算担当課長会議の際、組合経費の負担割合について意見が出され、一貫性、妥当性、平等性等を検証し、3市町で納得する算定方法に変更してはどうかという話が出た。

仙北市では、実績利用人数が少な

く、若干の疑問を感じている事を伝え、その部分について、実績人数で再度計算をしていただいたが、金額的にあまり変わらなかったという経緯がある。

質問 高齢者等除雪支援事業費について、この冬のような豪雪の場合、年金で暮らす高齢者世帯では、除排雪に係る費用が生活を圧迫するといふ声を耳にする。財政状況が厳しい事は承知の上だが、この制度を数回利用できる方向で検討できないものか。

答弁 これまでも、業者登録の呼びかけなど勘案措置は取っているが、今年度は積雪が増えている状況の為、費用と回数については検討したいと思う。今年度については、社会福祉

協議会と連携しての除雪ボランティアや建設業協会からの申し出などで除雪を行った事もある。包括支援体制整備事業で财源的な部分も含め、無理が生じる場合もあるので、地域での支え合いも強化していかないといけないのではないかと考えている。

質問 財政状況を考慮すると、地域運営体をはじめ、各組織・団体の協力を得て、高齢者世帯の状況をパトリールしながら、除雪支援をしていく体制も考えていかなければいけないと考える。関係する部署と連携を取りながら進めていくべきではないか。

答弁 今後の除雪支援体制については、関係機関も含めて連携を深め進めていきたい。

産業建設常任委員会

平成30年度仙北市一般会計予算

主な内容	技能功労者表彰事業費	18万円
	業界の発展、技能向上促進に寄与した優良技能者を表彰	
	通農体験・農業定住（五感楽農）事業費	200万円
	都会シニア退職後の夫婦が対象、JR 東日本と共催、農業体験（一泊二日）	
	仙北市特別栽培米普及事業費補助金	220万円
	仙北市堆肥センターの有機肥料を利用し、有機栽培米・野菜等に取り組む農家に助成	
	産地パワーアップ事業費補助金	3,007万円
	ライスセンターの設備を増強するもの	
	仙北市堆肥センター管理運営費	1,598万円
	臨時職員賃金 重機燃料費 電気代など	
	中山間地域区画整理事業費補助金	500万円
	圃場整備対象外の圃場で、畦畔除去による区画拡大を図る取り組みへ補助する。	
	新・秋田の行事 2018 開催費補助金	690万円
	10月6～7日 角館町で開催 県への負担金 警備保障会社への支払い	

答弁 他施設と比べて、いくらでも安く提供したい。

質問 肥料の代金はいくらになるのか。

質問 稲作の春作業には間に合わないが、野菜作りには間に合う。

質問 仙北市堆肥センターの肥料は、いつから利用できるのか。

質問 畦畔除去に一反歩十万円として、低額にできた時はどうする。

質問 管理は農家民宿がやることになる。農業体験料、食事代、宿泊料合わせて、120000円支払われる。

質問 作業後の管理は農家民宿がやるのか。農家民宿に入る経費は。

質問 「五感楽農事業」って何ですか。

質問 秋田新幹線を利用して、仙北市の農業体験をするツアーである。7月・9月・11月を計画している。やがては移住定住に結び付くようにしたい。

質問 作業後の管理は農家民宿がやるのか。農家民宿に入る経費は。

質問 管理は農家民宿がやることになる。農業体験料、食事代、宿泊料合わせて、120000円支払われる。

質問 作業後の管理は農家民宿がやるのか。農家民宿に入る経費は。

質問 「五感楽農事業」って何ですか。

質問 秋田新幹線を利用して、仙北市の農業体験をするツアーである。7月・9月・11月を計画している。やがては移住定住に結び付くようにしたい。

平成30年度予算 主な質疑

ここが知りたい
議論のポイント

意見書提出

最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める陳情

主な内容

- ・政治決断で最低賃金を大幅に引き上げる事。
- ・政府は、全国一律最低賃金制度の確立など地域間格差を縮小させるための施策を進めること。
- ・政府は中小企業への支援策を拡充する事。など



■堆肥センター4月1日始動開始



～いきいき広場～

子育て支援で 少子化解消へ

堀井 英和(36歳) 夫妻
みどり(36歳)

角館町川原字寺前

家族構成 8人家族

父(68歳) 母(66歳)
長女 小夏(9歳) 次女 柚香(7歳)
長男 泰仁(2歳) 次男 崇仁(2歳)

子育てをする上で一番大変なことは

心身の健康状態に気を配りながら、成長を見守り支えていくことです。子ども一人ひとりの性格や考え方を大切にしながら必要な知識を学ばせたり経験をさせていくことは本当に難しいと思います。

どのような子育て支援を求めますか

子育て費用の中で、大きな割合を占める教育費の負担軽減のために、経済的支援が充実していくと助かります。

国・県に子育て支援策として 求めるものは

小児医療の充実です。市立病院の小児科医の増員や開業医の誘致等、安全安心な子育てのために、医療の充実が欠かせないと思います。また、子どもが育つ地域の拠点となる集会所や各地区の会館等の整備の補助なども、地域社会における子育てに大きく関わってくると思います。

フリースタイルスキーワールドカップ

秋田たざわ湖大会開催

3月3日(土)・4日(日) たざわ湖スキー場で開催された、フリースタイルスキー・ワールドカップ秋田たざわ湖大会へは1万人を超える観客が訪れ、堀島行真選手がたざわ湖スキー場での日本人初の金メダル獲得で、会場は大きな盛り上がりを見せ、来年度も日本人メダリスト誕生への期待が高まった。



■女子モーグルエアー



■男子デュアルモーグル決勝

控室

会派制について思う

仙北市議会運用例には、

「本市議会では会派制を採っているため、政策において同一の理念を共有する議員の集団としての会派による活動が議会活動の根幹をなすものであり、会派としての組織的な行動が求められる。」とある。

しかし、一昨年9月の統合庁舎をめぐる採決で、全会派が解散。以来1年6か月を経

過したが、現在1会派のみ。

会派結成の動きはあるが結成届は提出されなかった。したがって、会派代表者会議も開かれず、すべて全員協議会で行っている現状である。

県内各市を見ても、会派制を採っていない市議会はない。合併12年を経ても、これだけ旧町村同士、議員間のわだかまりが深くては、

今後の議会の調整と役割が問われる。

地方議会における役割として、中央大学の佐々木信夫教授は、次の4点を上げている。

- ① 政策や予算の決定者
 - ② 執行機関への監視者
 - ③ 政策や条例の提案者
 - ④ 民意の意見の集約者
- 議員が少数になればなるほど、議員一人一人に課せ

られる責任と期待は大きくなる。この中で、一番の議会の強みは、民意を反映できる点である。議員が政策集団として会派組織を作り、民意の問題点を現場から鋭く問題提起し、解決策を提案したら、当局職員も目を開かれ、良い政策をつくろうと対抗する。

こうした議会と当局が切磋琢磨し、高め合う関係があればこそ、議員活動が目に見える形で活性化し、有権者の議会を見る目も変わってくるはずである。

当局への批判の為の批判ではなく、きちんと対案を提起

して当局と対峙（たいじ）し、財源や代替案を示すことが、議員・議会の責任であるはずである。

そのために、予算委員会では会派の総括質疑時間も設定している。

議会運営を円滑に進めていくためにも、改選後には、本来の会派制と議会運営のあり方を議論し、確立してから進むべきではないだろうか。それが、議会としての本来の役割につながり、議会力を高めていく事になると思う。

（熊谷一夫記）

平成30年3月議会

◎仙北市監査委員

戸澤 正隆（71歳）

角館町山谷崎高屋261番地

◎仙北市教育委員会 教育長

熊谷 徹（66歳）

角館町岩瀬168番地

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により議会の同意人事となったもの。

人事案件（敬称略）

◎雲沢財産区管理委員

藤原 房雄（73歳）

角館町下延竹市野141番地1

◎人権擁護委員

竹田 幸博（68歳）

田沢湖生保内字上滝沢144番地

佐藤 よし子（64歳）

西木町門屋字道目木180番地

編集後記

勇退される4名の議員の方々には最後の定例議会となりました。本会議、常任委員会と精力的に回る方、淡々と持論を語り勇退することを感じさせない方、それぞれの思いが込められた議会となりました。皆さんも私同様、あれも、これとも思っているうちに、任期の4年はあっという間に経過したような気が

していると思います。しかし、定例議会毎に発行された議会だよりを読み返して見ると、その時々々の4年間の定例議会の模様が走馬燈のようによみがえってきて、やはり4年間が経過したのだなと納得するのも事実です。編集委員の皆さんはそれぞれ得意の分野があり、原稿がヒタリと決まる等、委員の皆さんからの色々な支えにより責務を果たせたことに深く感謝を申し上げます。一三元代表制のもと、

政策提言等、市民の方々の付託に答えられ、議会を通じての安心、安全な地域づくり、誰もが住みたい、住んでみたいと思う仙北市となるよう市政を推進させていかれることをお願いいたします。

市民の皆様には、この4年間さまざまな指摘をいただきながら、ご愛読をいただき誠にありがとうございました。

（門脇民夫記）